

おはようございます。

先日、「ボンヘッファー ヒトラーを暗殺しようとした牧師」という映画を見てきました。ご覧になられた方もおられると思いますが、とてもすぐれた映画でした。主人公のディートリヒ・ボンヘッファーは牧師であり、たいへんすぐれた神学者でもありましたが、第二次世界大戦中にヒトラー暗殺計画に加わった罪で処刑されてしまいます。ボンヘッファーの残した著作は、今も世界中のキリスト教の教会にたいへん大きな影響を与えています。そのボンヘッファーが残した言葉の中に、このようなものがあります。プロテスタント教会が宗教改革でカトリック教会から分かれてくる際に、たくさんのを捨ててきました。教会の中の序列制度、マリア信仰、教会の中に偶像を置くことなど、さまざまなものです。それをいちばん忠実に守っているのが私たちバプテスト教会とも言えます。ところがボンヘッファーは、本当は捨ててはならない大事なもので捨ててきてしまったと語るのです。その一つが、告解と呼ばれている懺悔です。カトリック教会には告解室という懺悔をするための部屋があります。カトリックの信者さんたちはそこに入って、隣の部屋にいる神父さんに向かって懺悔をするのですが、プロテスタント教会がカトリックから分離する際にその告解も捨ててきてしまいました。たしかに、告解室で懺悔をすることによって、すべての罪がそれで赦されたと安易な罪の赦しが行われるのは問題かもしれません。そこでプロテスタント教会では、神様の前で罪を告白すれば、告解室に入って人間に過ぎない神父さん相手に罪を告白するような形式的なことはしなくてもよい、としたのです。自分は神様の前で罪を告白して悔い改めているのだから、兄弟の前でする必要はない。そんなプロテスタント教会の人たちに対して、ボンヘッファーは言います。兄弟の前で罪の告白や悔い改めができないのであれば、それは神様の前で正しく罪の告白や悔い改めができていないのだ。神様の前での罪の告白や悔い改めはできるけれども兄弟の前ではできないというのであれば、それは本当には神様の前で罪の告白や悔い改めはできていないのである。神様の前で真実に罪の告白や悔い改めができていないのであれば、当然、兄弟の前でもできるはずである。ボンヘッファーはそう語るのです。

罪の告白と悔い改め。これは、キリスト教の祈りの中でもとても大切なもので、キリスト教の祈りの特徴ともいえるでしょう。他の人の前で行うように、神様の前で罪の告白や悔い改めの祈りをする。これはとても大切な祈りです。キリスト教の祈りは他に、毎週みなさんに配信しています祈り課題にも載せておりますように、とりなしの祈りと願いの祈りがあります。とりなしの祈りは、誰か他の人のことを覚えて神様にとりなす祈りで、代表的なとりなしの祈りは、ルカによる福音書23章34節に出てくるイエス様の祈りです。十字架につけられたイエス様が、御自分の目の前にいる人たちのためにとりなす祈り、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と自分を十字架につけた人たちの赦しをとりなす祈りです。他の人たちを覚えて、その人たちの必要のために神様にとりなしの祈りを献げるのです。それは、大分の佐賀関で起こった大規模住宅火災で被災された人たちのことを覚える祈りであり、まだ十分な復興がなされていない能登半島の方々のことを覚えて祈る祈りであり、またそれは、世界各地で起こっている戦争の現場で今も逃げまどいながら苦しんでいる人たちのことを覚えて祈るとりなしの祈りなの

です。そしてもう一つ、願いですが、これは私たち自身の願望ではなく、神様の御心が成るようにとの祈りです。マルコによる福音書14章36節では、イエス様が十字架にかけられる前にゲッセマネの園で祈られた祈りが記されています。「アッパ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように」。このように、自分の願いではなく、神の御心に適うことが行われますように。これがキリスト教で祈られる願いの祈りです。

これら3つの祈り、罪の告白と悔い改めの祈り、とりなしの祈り、神様の御心を願う祈り。この3つの祈りに加えて、神様を賛美すること、神様に感謝を献げること、この賛美の祈りと感謝の祈りを加えた5つの祈りが、キリスト教の祈りの特徴であると言われていいます。賛美の祈り、感謝の祈りは、詩編の中にたくさん出てきますが、礼拝で歌う賛美も祈りの一つであると言ってもよいでしょう。神様を賛美し、神様に感謝を献げる。これら5つの祈りを、私たちも毎日、続けていきたいと思えます。

さて、今日の聖書の箇所は、これまで読んできました続きの箇所です。議会で取り調べを受けていたペトロとヨハネが釈放された際のお話です。ペトロとヨハネは、神殿の「美しい門」の前に置かれて人々に施しを乞うていた足の不自由な人をいやしたことで、彼の足をいやしたのは復活されたイエス様を信じる信仰によるのだと説教していた罪で捕らえられてしまいます。捕らえられた二人は議会で引き出され、そこで尋問を受けます。ペトロとヨハネが捕らえられ議会で引き出されたとき、ペトロやヨハネの仲間たちは、熱心にとりなしの祈りを献げていたことでしょう。「ペトロとヨハネが足の不自由な人をいやし、それが復活されたイエス様を信じる信仰によるものなのだと神殿で説教していたら、捕まって議会で引き出されてしまったそうさ」。「ああ、どうしよう。ペトロとヨハネは、ガリラヤ湖で漁師をしていた人たちだ。聖書を勉強したこともないし、大勢の人たちの前で話をしたこともない。あの二人、だいじょうぶかなあ」。仲間たちは、そんなふう二人のことをとても心配して熱心に祈りを献げていました。するとそこへ、釈放されて帰ってきたペトロとヨハネが現れました。そして、議会で取り調べを受けたこと、そこで彼らが議会の人々に向かって語った言葉、「この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石』です。ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」と堂々と福音を語ったこと、さらに議員たちがイエスの名によって話したり教えたりすることを禁止した際に、「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください」と語ったことなどをすべて、仲間たちに伝えました。それを聞いた仲間たちは、この世界を造られた神様に向かって声を上げて祈りを献げたのです。その祈りが、今日の聖書の箇所、使徒言行録4章24節以下に記されています。「主よ、あなたは天と地と海と、そしてそこにあるすべてのものを造られた方です。あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。『なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、諸国の民はむなしいことを企てるのか。地上の王たちはこぞって立ち上がり、指導者たちは団結して、主とそのメシアに逆らう』。事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒にあって、あなたが油を注がれた聖なる

僕イエスに逆らいました。そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください」。

ペトロとヨハネを迎え入れた仲間たちが献げた感謝の祈り。それは、捕まって議場に引き出されたペトロやヨハネのことを覚えて、仲間たちが熱心にとりなしの祈りを献げていたから起こった祈りでした。仲間たちが熱心に、ペトロやヨハネを覚えてとりなしの祈りを献げていなければ、感謝の祈りもそれほど大きな喜びではなかったことでしょう。仲間たちが献げた感謝の祈りの大きさは、彼らが熱心に献げたとりなしの祈りの大きさなのです。私たちも熱心にとりなしの祈りを献げ、その祈りが叶えられたらたくさんの感謝の祈りを献げていきたいと思えます。そしてまた、仲間たちが献げた感謝の祈りは、ペトロとヨハネが釈放された喜びだけに留まりませんでした。仲間たちは、天と地と海と、そこにあるすべてのものを造られた天地創造の神に感謝を献げます。すべてのものの創り主である神様は、その僕であるダビデをも造られました。そしてその僕ダビデの口を通して、はるか昔に預言の言葉を語られたのです。『なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、諸国の民はむなしいことを企てるのか。地上の王たちはこぞって立ち上がり、指導者たちは団結して、主とそのメシアに逆らう』。神様とイエス・キリストとに逆らう異邦人、諸国の民、地上の王たち、指導者たちは団結して、むなしいことを企てました。神様が送ってくださった救い主、イエス・キリストを十字架上で抹殺しようとしたのです。けれども神様は、そのような人間のむなしい計画を打ち破り、あらかじめ定められていた救いの御計画、人々の手によって殺されたイエス・キリストを死者の中からよみがえらせてくださり、イエス・キリストの十字架を、人々を罪から救う罪の贖いの十字架としてくださいました。この素晴らしい神様の御計画、人知ではとうていはかり知ることのできない御救いの御計画を立ててくださり、実行してくださった神様を、ペトロとヨハネとその仲間たちは、賛美を献げ、感謝を献げたのです。仲間たちの感謝の祈りは、単にペトロとヨハネが釈放されたことへの感謝だけではなく、彼らが議会で堂々と語った言葉、神様が死者の中からイエス・キリストを復活させてくださったその事実、そしてその出来事は神様があらかじめ定めてくださったはるかなる救いの御計画であったことへの感謝の祈りなのです。天地を創造された神様への感謝は、私たちがこの世で神様から造られ命を与えられていることへの感謝です。そしてそればかりでなく、私たちがこの世で犯すさまざまな罪を悔い改めるときに、その罪の身代わりとしてイエス・キリストを十字架にかけて私たちを罪から救ってくださったことへの感謝。そしてさらに、この素晴らしい真実、神様の壮大な御計画を語ろうとするとき、そこにはさまざまな妨害が入るけれど、それらからも守られて真実の福音が世界へと宣べ伝えられていくことにも感謝。それらのすべての感謝が献げられているのが、今日の聖書の箇所に出てくる感謝の祈りなのです。

私たちがこのようなすばらしい感謝の祈りを献げることができるように、日々の祈りの訓練を積みながら、共に祈りを合わせていきたいと願います。

お祈りしましょう。